笑む笑む会
みんなで支え合おう明るい老後

きずな

笑む笑む会会報　第 341 号
平成 30 年 3 月 16 日発行
一般財団法人延岡市高齢者福祉協会
延岡市山下町 1 丁目 7-9
☎(0982)21-6675
http://emu-emukai.jp/

創立記念講演会 「『市民が主役!!』支え合いによる高齢者生活支援サービス」～大分県竹田市の取組みを学ぼう～ を開催しました

２月２日（金）18 時 30 分からカルチャープラザのべおかハーモニーホールにおいて、竹田市経済活性化促進協議会の児玉誠三室長と高木佳奈枝事業支援員のお二人を講師に迎え、創立 30 周年記念講演会を開催しました。

竹田市は官民連携のもと、平成 22 年から在宅高齢者の暮らしを支える仕組みづくりに取り組んでいます。

現在、市内７ヶ所に高齢者の寄り合い場「暮らしのサポートセンター」が設置されており、そこでは地域住民が高齢者への送迎や食事、レクレーション、健康体操などのサービス（内容により無料又は有料）を提供しています。また、当協会の「笑む笑むサービス」と同様、地域住民が有償で家事を代行し互いに日常生活を支え合う「暮らしのちょっと困り」お手伝い事業も市全域で展開しています。

講演会には当協会役職員のほか、民生児童委員、地域福祉推進チーム、いきいきサロン、社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政、市議会など幅広い層から１０４人の参加がありました。

講演会終了後も、制度づくりの基礎データとなった「生活実態調査」の方法や「寄り合い場」に関する質問が事務局に寄せられています。また、「今後に向け、とても参考になった」との感想が各方面から届いており、意義ある講演会とすることができました。

竹田市 暮らしのサポートセンター「なんせい」の皆さんとの交流会を開催しました

２月27日（火）竹田市暮らしのサポートセンター「なんせい」の活動会員28人の皆さんが協会本部のある北老人福祉センターを訪れ、交流会を開催しました。当協会からは、理事長、笑む笑むサービス協力会員、コーディネーター、地域包括支援センター職員、事務局員ほか計21人が出席しました。

竹田市西部にある「なんせい」は、地域に暮らす方々が主体的に支え合い活動に参加され、高齢者に対し寄り合い場までの送迎や食事提供、介護予防活動などを行っています。また、暮らしのお手伝いとして、居宅周辺の環境整備やゴミ出しなど高齢者ごとのニーズに応じた有償サービスを提供しています。

設立して3年目を迎えたばかりとのことですが、皆さん、明朗で和気あいあい、特に男性会員の皆さんの明るくエネルギッシュな言動がとても印象的でした。お互いの活動内容に関する質問や活発な意見交換が行われ、双方にとって今後の活動に繋がる内容のある交流会となりました。

◇ 憩いの広場にみんな集まれ！ 毎月1回 「みんなでごはんを食べよう会」を開催しています

北老人福祉センターの玄関を入りすぐ左の部屋が「憩いの広場」となっていることをご存知でしょうか？休憩・おしゃべり・お茶会など、誰でも気軽に利用できる交流スペースです。

この広場を活用した第一弾企画として、1月29日（月）に、「みんなでごはんを食べよう会」が開催され、ひとり暮らしの男性5名が参加されました。コミュニティカフェ「いなかま」の石丸さんと岡富地域包括支援センターのスタッフが協力して会を運営し、簡単な運動や頭の体操をした後、お昼に皆で豚汁とおにぎりを食べました。参加者からは「大勢で食べるといつもより美味しい」「次回はカレーがいい、お好み焼きやシシ鍋も食べたいね」などといった、次の集いを楽しみにする声をいただきました。

第2回目は、2月26日(月)に開催しました。参加者は6名で、そのうち5名の方が第1回のリピーターさんでした。今回は花札・トランプ・カルタなどを準備していたところ、花札を手に取りプレーされる方もおられました。久し振りだったせいかルールを多少忘れている場面があり、「これは、どんげじゃったかね？」「たぶん、こうよ」「あぁ、そうじゃった」と、互いに確認し合いながら懐かしそうに楽しまれていました。

昼食メニューはカレーライス、サラダ、牛乳ゼリーでした。今回は、飛び入りの参加者もあり、スタッフを含め約20人の大勢で楽しいひとときを過ごしました。

今後、まずは月1回程度のペースで実施していく計画で、次回は3月26日(月)を予定しています。花見シーズンということで「ばら寿司」を作ることに決まりました。センターの庭には大きな桜の木があり毎年見事な花を咲かせます。花を愛でつつ、多くの方に参加いただけることを期待しています。

～第1回目の様子から～

和気あいあいと楽しそうに体操をする様子が伝わってきますね！

愛情たっぷりの豚汁に、体だけでなく心も温まりました！！
自然と笑顔のこぼれる時間となったようです。

このスペースを誰もが気軽に集える憩いの場所にしていきたいと考えています。楽しい企画をお持ちの方や、こんなことに広場を使ってみたいという方は、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。お待ちしております。

【問い合わせ先】 北老人福祉センター ☎21～6673

「砂漠に一本線を引きたい！！」

代表理事　藤田　朝子

「砂漠に一本線を引きたい、それが私の夢！！」

篠田　桃紅（しのだ　とうこう）105歳の言葉です。

篠田は、墨を用いた抽象表現主義者として、世界的な美術家と評されているそうです。墨の濃淡・線・方形で描かれたその作品は、書物でしか見たことがないので、私ごときには、とても理解しがたく、好きか嫌いかの感想しか言えないと思います。大英博物館をはじめ、メトロポリタン、スミソニアン等、世界各地の有名な博物館・美術館・大学・企業などに収蔵してあり、日本でも皇居や多くの公共施設に収蔵されているということですが、九州では日南市文化センターのみのようです。

砂漠に遠々と延びる一本の線に何を託すのか。

一本の線を眺めながら、105年の来し方を、「生きている限り人間は未完成」という自らの思いを馳せ、そしてまた孤独を楽しむのか。

去年暮れだったと思いますが、家事まっ最中、テレビ番組に桃紅が出ているのに気づき、そこで「砂漠に云々」と言っているのを耳にしたのですが、すぐ番組が終わり、全部を見られなかったのが残念でした。105歳の受け答えの素晴らしかったこと、その姿を見られただけでも感動し、背筋の伸びたそのかくしゃくたる態度には畏敬の念さえ抱きました。

二年前に桃紅の「103歳になってわかったこと～人生は一人でも面白い」という自伝書を読みましたが、どの章も分かり易く端的に語っておられ、積年の思いを感じることが出来、とても楽しめました。

105歳はどう出るか、あの一本線についての解釈が出てくるのか、益々お元気で活躍して欲しい。

「笑む笑むサービス事業」に大きな期待が寄せられています!!

年齢・資格は問いません。
協力会員として支え合う地域づくりに参加しませんか？

延岡市の本年2月1日現在の住民基本台帳による全人口に占める65歳以上人口の割合は32・4％で、全国平均の約27％、県平均の31％を上回っています。およそ3人に1人が65歳以上ということになりますが、1歳ごとの区分による年齢別人口を見ると大きな特徴があります。

具体的には、延岡市民約12万5千人のうち、69歳が最も多く2471人、次いで68歳2388人、67歳2318人、順に70歳、67歳、66歳（いずれも2千人以上）と続き、若年層の25歳913人、35歳1265人に比べおよそ2倍から3倍に近い人数となります。

この人口の多い高年齢層は、いわゆる、「団塊の世代」と呼ばれる、戦後すぐに生まれた方々です。

今、国は高齢者層の増加に伴う財源難から、要支援者や介護度の低い高齢者を介護保険の対象から外し、市町村が主体となり実施する地域支援事業（総合事業）へ移行させる取り組みを進めています。

全国的に介護の担い手不足が深刻な問題になりつつある中、本市においても、団塊の世代が年々年齢を重ね徐々に日常の世話や介護を必要とするようになってきます。その時に、「日常のお世話や介護を誰が担うのか」ということを皆でしっかり考えておく必要があります。

こうしたことから、今、高齢者の暮らしを支え合う「笑む笑むサービス事業」に大きな期待が寄せられています。当協会では、事業の拡充に向け、新年度から協力会員（活動費支給）を広く募集します。

年齢・性別・資格は問いません。お元気な高齢者の参加も含め、皆様のご参加をお待ちしております。

☆　第１１回　☆

～あなたの大切な人へ　伝えたい～
「こころのメッセージ」100編より

☆ おかあさんへ　［小学3年生］
「じょうずだね」　そう言ってくれると
うれしくなるの
なぜかお母さんのまえで　やってしまうの
「じょうずなこと」

☆ お父さんへ　［小学4年生］
夜おそく帰ったときに　おそいって言ってごめん
心の中では　おかえりおつかれさまが
言えているのにな

☆ 息子へ　［一　般］
「手をつないで」が　口ぐせだった息子
軽くなった右手が　さびしいな

「延岡市・延岡市人権啓発推進協議会」発行

寄付お礼

『寄付金』

松本 由美子 様　　児嶋 タキヱ 様
甲斐 貞夫 様　　佐伯 平子 様
牧野 洵子 様　　馬場 登喜子 様
渡部 恭久 様

『物品寄付』

田上 瑤子 様　　甲斐 みどり 様
カンナ工房 様

編集後記

日ごとに暖かくなってきましたね。

北老人福祉センターの玄関も、冬の間寂しく殺風景でしたが、少しずつ春の可憐な花々で彩られるようになり、今では小さなお花畑のようです。心弾む季節の到来です。お花見や山菜狩りなど楽しい事も沢山あります。大いに自然を満喫して、春陽のもと穏やかな日々をお過ごしください。

また、季節の変わり目でもありますので、くれぐれもご自愛ください。